

文学座公演

# 寒花

か  
ん  
か

作／鐘下辰男 演出／西川信廣



2019年3月4日(月)→12日(火)

紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYA

## あらすじ

明治 43 年 (1910 年)、旧南満州・旅順の監獄に、ハルビン駅前で時の韓国統監であった伊藤博文を暗殺した朝鮮人青年・安重根が収監されてくる。日露戦争の戦勝国としての体面を保つため、〈無事に〉安の死刑を執行するため派遣されるエリート外務省高官と、監獄の長である典獄、看守長、獄内の情報提供者である模範囚、皮肉な傍観者を気取る監獄医らの確執の中で、統監府から差し向けられた朝鮮語通訳と死刑囚・安重根との静かな対話が、ぶつかり合う人間たちの心に揺さぶりをかける。窓外には寒花(雪)が降りしきる。



## 安重根 (An Jung-gun 1879 年 9 月 2 日— 1910 年 3 月 26 日)

1909 年 10 月 26 日に、前朝鮮統監の伊藤博文を、ハルビン駅構内で暗殺した。

伊藤博文が朝鮮統監を務めていた 1906 年から 1909 年までの約 3 年の間に、統監府は保護国化を進め、朝鮮の軍隊を解散させて、それに抵抗して蜂起した兵士と民衆を力づくで鎮圧した。その為、安は伊藤博文を「大韓独立主権侵奪の元凶」と考え暗殺した。

安はロシア官憲に逮捕されて日本の関東都督府に引き渡され、日本の裁判により 1910 年 3 月 26 日に処刑された。しかし彼の持つ個人的資質や、彼の行動と幕末の志士とを重ね合わせ、安を朝鮮の志士であるとするなど当時の日本人のなかにも共感するものもいた。

## 企画意図

『寒花』とは雪や氷を花に例えての表現。

安を監督する為に内地から派遣された外務省政務局長・黒木は、近代国家としての威信にかけて国賊・安重根を無事に絞首台へと送ろうと特別待遇を命ずる。批判的ながら従う典獄や看守長。監察医の宮田はそれをシニカルな傍観者として毒のある言葉をまき散らす。旅順という最果ての監獄で働く彼らは戊辰戦争の敗者である東国出身者である。長州出身で時代のエリート黒木への遺恨や当時の日本のアジア諸国への「力の支配」の非人間性が浮かび上がる。そこに宮田と同級生だった楠木が、通訳として入ってくる。楠木には、長男を亡くし正気を失った母がいる。処刑を前にした安の揺るがぬ信念とキリスト教の信仰からくる、心安らから誇り高い振る舞いが日本人に動揺と混乱を巻き起こす。

黙秘を続ける安の口をどう開かせて事件を解明するのか、どうすれば文明国らしい処遇を世界に示した後に処刑できるのか。その過程で安をめぐる人物の過去や人生観が浮かび上がってくる。

「強い者がすべてを支配する時代。つまり弱者であること自体が罪になる時代」というセリフは、今、世界に溢れる排外主義と強権社会に向かって問いを投げかけてくれるでしょう。

## 作: 鐘下辰男



北海道出身。1987年に演劇企画集団 THE・ガジラを創立。社会と人間の暗部に深く鋭い視線を向けたジャーナリスティックな作品を数多く執筆。19歳で連続射殺事件を起こした永山則夫（ながやま・のりお）を材にとった『tatsuya—最愛なる者の側へ』で第42回芸術選奨文部大臣賞新人賞を、戦争俘虜を題材にした『PW—PRISON OF WAR』と文学座への書き下ろし作『寒花』（かんか）他で第32回紀伊國屋演劇賞個人賞、第5回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞を受賞。近作に『藪の中（やぶのなか）』『死の棘（しのとげ）』『ヒカルヒト』『ひかりごけ』『セルロイド』など。桜美林大学客員准教授。

## 演出: 西川信廣



1949年、東京生まれ。文学座附属演劇研究所16期、1981年座員となる。

1986年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてイギリスに滞在。

1984年文学座アトリエの会『クリスタル・クリアー』で文学座初演出。

1992年文学座アトリエの会『マイ チルドレン！マイ アフリカ！』にて紀伊國屋演劇賞個人賞、芸術選奨・文部大臣新人賞。1994年文学座公演『背信の日々』で読売演劇大賞優秀演出家賞。

劇団公演以外にも、『黒蜥蜴』（明治座）・『マイ・フェア・レディ』（東宝）などの大劇場作品から、再演を重ねる『てけれっつのば』（文化座）、『真砂女』（朋友）、『十二人の怒れる男たち』『音楽劇わが町』（以上俳優座劇場プロデュース）など幅広く活躍。岐阜県可児市にスタッフ・キャストが滞在して立ち上げる地方発信型の公演「アーラコレクション」シリーズでも、『エレジー』『黄昏にロマンス』『すててこてこてこ』などを演出。シリーズ最新作は別役実作『移動』。最近の劇団公演は『再びこの地を踏まず』『真実』など。

新国立劇場演劇研究所副所長。東京藝大客員教授。日本劇団協議会会長。日本演出者協会理事。

### 初演劇評

○中央のエリートと現場との摩擦といった現代につながる官僚体質や、当時の日本とアジア諸国との関係を想起させる「力の支配」の非人間性などが浮かび上がる。（朝日新聞）

○鐘下は、明治維新から日本で続く東国人と西国人の確執、エリートと非エリートの対立などをあばく「装置」として安を据えた。（毎日新聞）○鐘下は、登場人物のひとりひとりを鮮やかに描きわけたが、西川信廣の演出がまたみごとで、暗い緊迫感が終始とぎれない。それなのに、どこかさわやかな抒情が漂い、希望の灯がかすかに見えるような気がする。これは鐘下の持ち味であり、西川演出の特色でもある。二人の個性がうまく重なって、ふしぎな感動が残った。（演劇界）

○体面にこだわり、強権を発動する様は現代の総会屋問題にも通じる。悟ったかのように、死を静かに受け入れる安は周囲の狂騒を明瞭に浮かび上がらせた。（読売新聞）

美術/池田ともゆき 照明/阪口美和 音楽/上田 亨 音響/中嶋直勝

衣裳/岸井克己 演出補/北 則昭 舞台監督/寺田 修

## 出演

大滝 寛、鈴木弘秋、得丸伸二、瀬戸口郁、横山祥二、若松泰弘、

瀬戸口郁、佐川和正、細貝光司、池田倫太郎、常住富大、新橋耐子



佐川和正 (さがわかずまさ)

平成 29 年度 第 52 回紀伊國屋演劇賞個人賞 (『食いしん坊万歳!』『屠殺人 ブッチャー』)

平成 30 年度 第 25 回読売演劇大賞 優秀男優賞 (『食いしん坊万歳!』『ベルリンの東』)

瀬戸口郁 (せとぐちかおる)

平成 20 年度文化庁芸術祭大賞 (演劇部門 脚本)『てけれっつのぱ』(劇団文化座)

最近の出演作品に『女の一生』『再びこの地を踏まず』(以上文学座)、音楽劇『わが町』『十二人の怒れる男たち』(俳優座劇場プロデュース)など。

新橋耐子 (しんばしたいこ)

昭和 52 年度 第 12 回紀伊國屋演劇賞個人賞 (『雨』『山吹』により)

平成 6 年度 第 2 回読売演劇大賞優秀女優賞 (『頭痛肩こり樋口一葉』により)

平成 10 年度 第 9 回松本市民劇場賞最優秀俳優賞 (『頭痛肩こり樋口一葉』により)

平成 28 年度 第 42 回菊田一夫演劇賞 (『食いしん坊万歳!～正岡子規青春狂詩曲～』)

平成 29 年度 文化庁長官表彰

平成 30 年度 第 25 回読売演劇大賞 優秀女優賞 (『食いしん坊万歳!～正岡子規青春狂詩曲～』)

## スケジュール

	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12
	月	火	水	木	金	土	日	月	火
13:30		○	○	都民		○	○		○
18:30	夜割				夜割			都民	

【前売開始】 2月4日（月）

一般 6,000円 夜割 4,000円 (3/4・3/8) 夫婦割 10,000円  
都民割 5,000円 (3/7・3/11) ユースチケット (25歳以下) 3,800円  
中・高校生 2,500円

### 【チケット取扱い】

文学座チケット専用 0120-481034 (シバイヲミヨ-)(10時~17時30分/日祝を除く)

チケットぴあ 0570-02-9999

e+ (イープラス) <http://eplus.jp/bungakuza/>(PC・携帯共通)

キノチケットカウンター 紀伊國屋書店新宿本店5F [店頭販売 10:00~18:30]


キノチケオンライン <https://www.kinokuniya.co.jp/>

文学座ホームページ <http://bungakuza.com/>(Getiiより)

〒160-0016 東京都新宿区信濃町10



03 - 3351 - 7265 (10:00~18:00/日祝除く)

 **文学座** (担当: 友谷・最首)